

証券コード：4406（東証スタンダード）

2026年3月期上期

決算説明会資料



2025年11月21日

代表取締役 社長執行役員
盛田 賀容子





■ 2026年3月期上期 決算概要

□ 2026年3月期通期 業績予想

□ 中期経営計画の進捗状況

□ リカコネクト2025開催

□ 参考資料



■ 2026年3月期の上期業績は減収減益

売上高

158 億円

前年同期比較



前年実績 161 億円

差額 △3 億円

(- 2%)

営業利益

(△は損失)

3.4 億円

前年同期比較



前年実績 2.9 億円

差額 +0.5 億円

(+19 %)

中間純利益

(△は損失)

2.4 億円

前年同期比較



前年実績 2.9 億円

差額 △0.5 億円

(-19%)

オレオケミカル

環境

- アジア地域からの安価品流入が続く一方、国内では観光需要の回復によりトイレタリー用途の基礎需要が底堅く推移。

概況

- 界面活性剤は外部環境の影響を受け前年を下回ったものの、需要の底堅さを維持。工業用の天然高級アルコールは価格転嫁により、数量は前年並も売上は前年を上回る。

可塑剤

環境

- 海外市況の低迷と安価な海外品の国内流入が継続し、収益環境は厳しい状況が継続。主原料価格の高止まり、主用途である建材向け需要が弱含みに推移し、全体として市況は低調。

概況

- 建材需要の減少により汎用可塑剤の販売は前年を下回ったものの、特殊可塑剤の販売増により売上減を一部補う。

合成樹脂原料

環境

- 自動車産業での生産・販売の持ち直しにより、関連材料の需要も回復基調となる。一方、電子材料分野は中国経済の停滞や相互関税の影響が継続。

概況

- 自動車産業向けは需要回復を確実に捉え、数量・売上とも前年超えを達成。電子材料向けは数量こそ前年並みを維持したものの、安価品との競合で売上は減少。

機能性化学品

環境

- 欧州需要が鈍化する中、中国・アジアからの安価な添加剤が流入し、価格競争が一段と激化。

概況

- 需要減と価格競争の影響を受け、数量・売上ともに前年を下回るも、主要顧客との関係維持により一定の出荷水準は確保。

- 海外市況の低迷や海外品の流入等により販売数量及び売上高が減少
- 各製品価格改訂により原料スプレッドの維持、固定費等の経費削減により、営業利益が増加
- 関係会社の純利益減により経常利益が減少

（単位：百万円）

	2025年3月期 上期	2026年3月期 上期	前年度比較	
			増減額	増減率
売 上 高	16,110	15,799	△311	△1.9%
営 業 利 益 （ △ は 損 失 ）	287	341	+ 54	+18.8%
経 常 利 益	375	186	△189	△50.4%
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益 （ △ は 損 失 ）	292	238	△54	△18.5%
1 株 当 た り 中 間 純 利 益 （ △ は 損 失 ）	7.84円	6.38円	△1.46円	△18.6%



□ 2026年3月期上期 決算概要

■ 2026年3月期通期 業績予想

□ 中期経営計画の進捗状況

□ リカコネクト2025開催

□ 参考資料



■ 通期業績予想は以下のとおり

売上高

340 億円

前期実績 327億円
前期比較 +4.0%

営業利益

9 億円

前期実績 8.3億円
前期比較 +8.6%

経常利益

7.5 億円

前期実績 12.0億円
前期比較 △37.2%

親会社株主に帰属する

当期
純利益

5.5 億円

前期実績 5.2億円
前期比較 +5.4%

環境予測

- 米国の関税引き上げの影響により、輸出が日本経済全体の足を引っ張る「外需マイナス」の状況が続く可能性がある
- 環境意識の高まりによる植物油（パーム油）需要の増大に加え、後半は不収穫期にはいるため、油脂原料の価格高騰が想定される
- 内需が低迷する中国から安価な製品が輸出されることにより海外市況が下落。アジア向け輸出の価格競争はさらに厳しくなる見込み

事業戦略

- 製品構成の見直しを継続するとともに、ロス低減のための安定・安全生産体制の強化など、収益力をより向上させる取組みを継続する

オレオケミカル

- | 海外グループ会社との製造・販売面での連携強化、適正価格維持、新規ユーザーの開拓

可塑剤

- | 安定的な原料調達・生産・物流を確保し、信頼性の高い供給体制を堅持

合成樹脂原料

- | 電子材料向け高純度品の用途開拓を進め、高収益製品の販売を伸長

機能性化学品

- | 樹脂添加剤の拡販に向けての増産対応を進め、開発品について早期事業化を推進

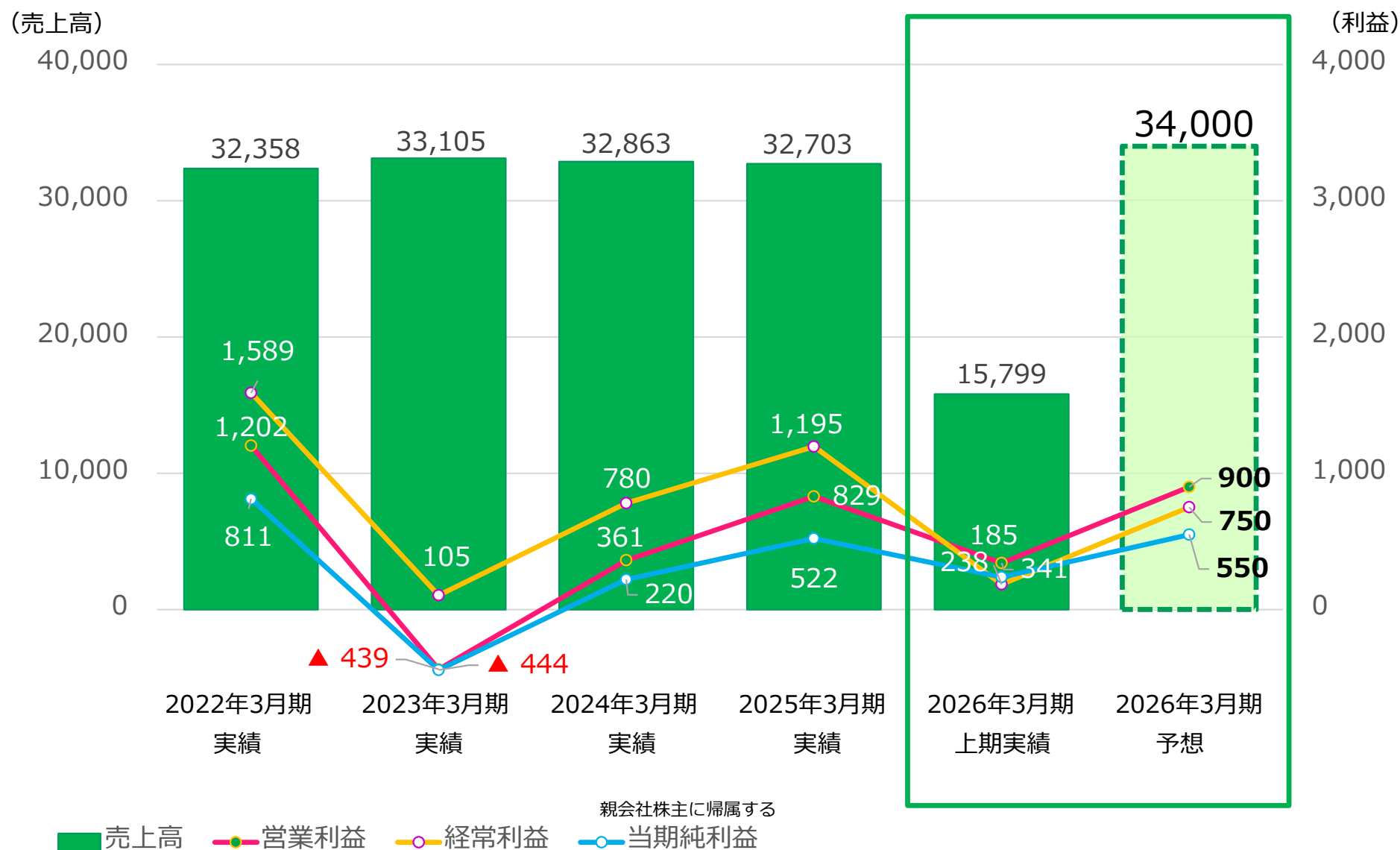
■ 期末配当は1株当たり4円、配当性向は27.1%を予定

（単位：百万円）

	2025年3月期 実績	2026年3月期 上期 実績	2026年3月期 予想	前期比較		上期実績 進捗率
				増減額	増減率	
売上高	32,703	15,799	34,000	+1,297	+4.0%	46.5%
営業利益	829	341	900	+71	+8.6%	37.9%
経常利益	1,195	185	750	△445	△37.2%	24.7%
親会社株主に帰属する 当期（中間）純利益	522	238	550	+28	+5.4%	43.3%
期末配当金（円）	4円	-	4円	±0円	-	-
配当性向（%）	28.6%	-	27.1%	-	-	-

■ 過去4年間の推移および2026年3月期の業績予想

（単位：百万円）





□ 2026年3月期上期 決算概要

□ 2026年3月期通期 業績予想

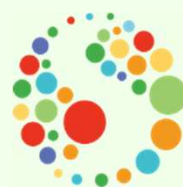
■ 中期経営計画の進捗状況

□ リカコネクト2025開催

□ 参考資料



VISION 2030



Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二の個性をもった素材のスパイスで、
世界をより、健やかで豊かなものに、
毎日をもっと、心ときめくものに。

中期経営 計画 2021～ 2025

◆ 基本コンセプト

- ｜ 環境・社会・人（命）に関わる課題に果敢にチャレンジし、価値創造企業を目指す。
- ｜ 情報・通信、モビリティ、ライフサイエンス、環境ソリューションの4領域に経営資源を集中し、成長戦略を実現する。

◆ 経営目標（2026年3月期・連結） ※2024年6月修正

｜ 売上高：340億円 ｜ 営業利益：8億円 ｜ ROE：6.0%

ポートフォリオ組換えの加速

戦略	取組みと成果
<ul style="list-style-type: none">製品ラインナップ見直しに対応する、フレキシブルな生産・販売体制を構築する。新規事業として環境貢献製品のビジネスを拡大する。グループ海外拠点を起点に海外ビジネスを拡大する。	<ul style="list-style-type: none">オレオケミカル・可塑剤の事業再構築（生産拠点・品目の最適化）<ul style="list-style-type: none">一部の主力製品については国内生産を海外関係会社へシフト。ノンコア製品は販売を順次中止。事業の絞込みを実施。環境負荷低減製品／バイオ由来製品の開発と用途開拓<ul style="list-style-type: none">成形現場の生産性向上・エネルギー低減：RiKACRYSTA®電気不要のバイオマス蓄冷材：RiKAeCOOL™バイオマス可塑剤：グリーンサイザー®バイオマス由来のエモリエント剤：RiKANATURA®樹脂原料・機能性化学品の海外販売拡大<ul style="list-style-type: none">英国、韓国の子会社を軸に販売網を開拓。

モノづくり力の向上

戦略	取組みと成果
<ul style="list-style-type: none">調達ソースを多様化し、サプライチェーンを強化する。生産・設備情報のデジタル化を進め、生産性と品質の向上を両立させる。品質管理を高度化し、高純度品の安定生産を実現する。	<ul style="list-style-type: none">調達先の多様化・分散化によるリスク低減<ul style="list-style-type: none">製品毎の調達リスクを可視化し、高リスク製品については新規サプライヤー評価（ラボ評価～実機検証）を実施。生産機能のデジタル化推進<ul style="list-style-type: none">主要設備における稼働データの解析により、異常の早期発見と品質安定化を実施。生産業務の暗黙知を電子マニュアルにより形式知化し、品質安定化と同時に技能伝承を推進。品質管理・生産管理・設備保全の体制再構築<ul style="list-style-type: none">上期より京都工場にて新たな品質管理システムの導入開始。品質データの信頼性、作業の効率化の向上へ。今後、全社への展開を進めていく。

■ 修正中期経営計画の着実な遂行により、利益構造の改革を目指す





□ 2026年3月期上期 決算概要

□ 2026年3月期通期 業績予想

□ 中期経営計画の進捗状況

■ リカコネクト2025開催

□ 参考資料



リカコネクト2025開催の様子

コンセプト：「共創の扉 ― 未来をひらく、つながりの場」

2025年10月24日、シティプラザ大阪にてリカコネクト2025を開催。前回開催から6年ぶりと言う事で、商社を中心とした61社、175名の方々に出席頂き、株式会社化学工業日報 代表取締役社長の佐藤豊様の基調講演をいただいた後、オーラルセッションとポスターセッションにて当社新製品の紹介、活動報告などを実施。

オーラルセッション



オーラルセッションでは、基調講演に加え、3年連続で大阪工研の工業技術賞を受賞した開発品の内容について発表しました。また、知財力の強化に向けた取り組みについても紹介しました。

ポスターセッション



研究開発部員が、ポスターセッション形式にて当社製品および開発中の技術について、わかりやすくご紹介しました。

PP成形品のサイクルタイムを大幅に短縮可能なRiKACRYSTAをはじめ、バイオマス可塑剤やポリイミド樹脂原料など、約10の注力テーマを展示しました。

◆2024年までの知財活動について紹介

出願数減少や無形資産に対する意識改革のために3つのコンセプトで活動しました。

1. 知財プレゼンスの向上：「まずは知ってもらおう！」
2. 知財力強化：「まずは出願してもらおう！」
3. プロフィットセンター化：「まずは無形資産価値を高めよう！」



活動に取り組んだ結果、出願数の増加や意識改革につながっております。

また、休眠特許の開放や他社知財交流会などを通し、「技術の広報」として活動しています。

◆2025年これからの知財戦略について紹介

IP Protect and IP Forecastの2軸で知財を活用していきます

- **IP Protect**で自社知財を守り育て、各事業のリスクマネジメントと共に「選ばれる新日本理化」づくりを行います。
- **IP Forecast**で研究開発部門と伴走し、当社事業のミライづくりや新たなSPICEをカタチにしていきます。



Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二のスパイスで、
世界を健やかで豊かなものに、毎日を心ときめくものにしたい。

もの創りの会社、新日本理化は、
これからも広く社会の発展に貢献してまいります。



□ 2026年3月期上期 決算概要

□ 2026年3月期通期 業績予想

□ 中期経営計画の進捗状況

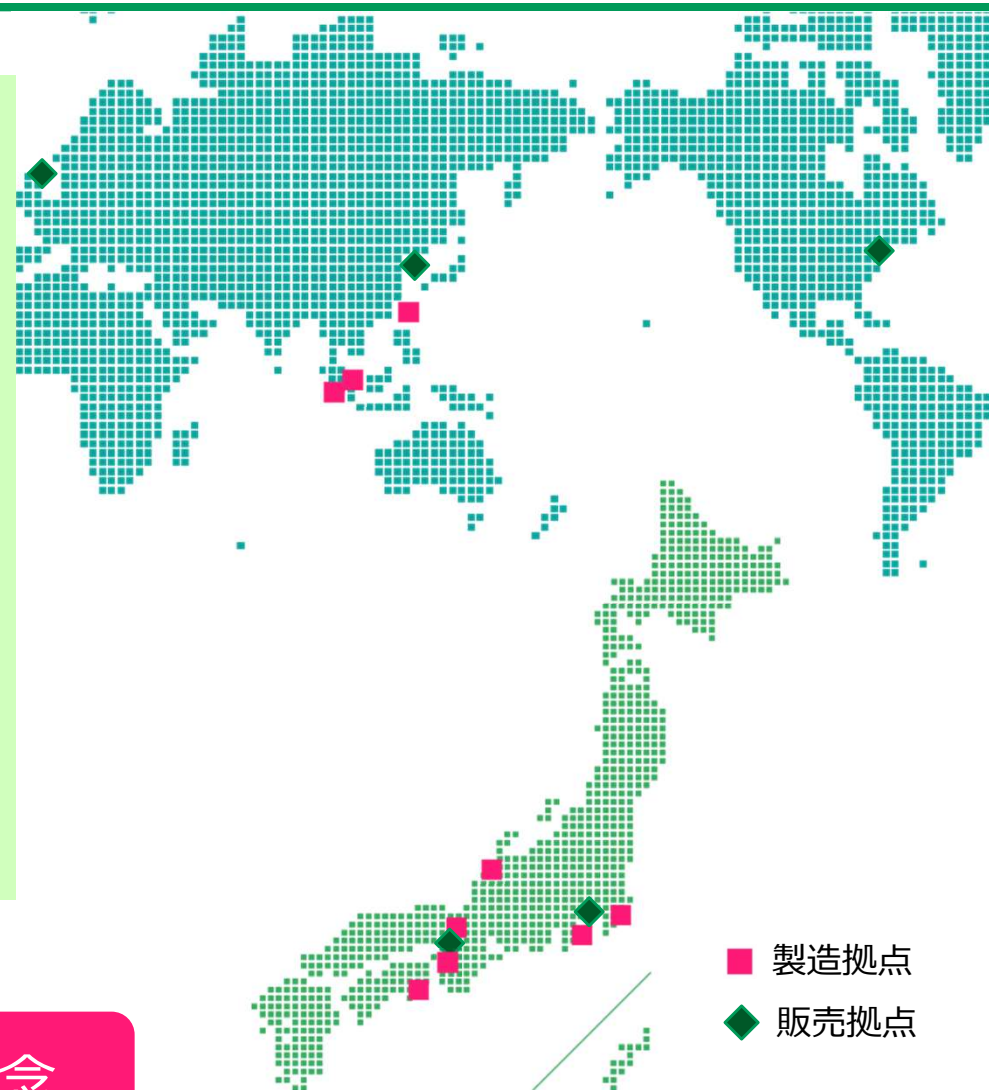
□ リカコネクト2025開催

■ 参考資料



新日本理化株式会社

- 創業：1919年（大正8年）11月10日
- 資本金：5,660百万円
- 従業員数：413名（連結）[2025年3月末]
- 事業内容：化学製品の製造・販売
- 営業所：大阪（本社）、東京
- 工場：京都、徳島、川崎、堺
- 研究所：京都
- 関係会社：国内4社、海外6社

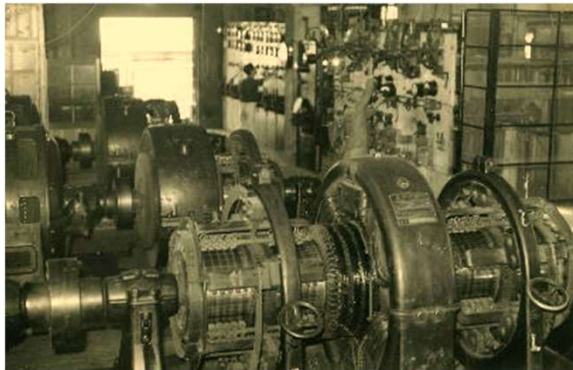


経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

1920年

水の電気分解により製造した酸素ガスの販売を開始

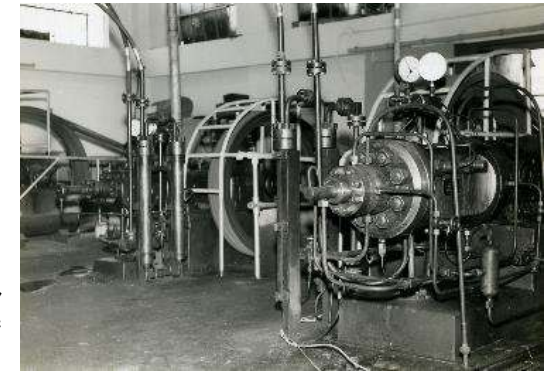


創業時の直流発電機

1951年

ヤシ油を水素化して高級アルコールを製造、可塑剤事業スタート

高級アルコール
製造設備



1961年

水素化技術を活用して
無水コハク酸を製造（日本初）

1922年

魚油に水素を添加して硬化油を製造、
今日につづく水素化技術の始まり



硬化油工場

1982年

ポリオレフィンの透明性を改良する結晶核剤を開発、機能性化学品事業に進出



ポリオレフィン製容器

2001年

HDDのモーター向けの潤滑油を開発



内蔵HDD

2022年

結晶化速度を大幅に改善した結晶核剤
RiKACRYSTA®を発売



RiKACRYSTA

2019年
創業100周年

1993年

植物系（ヤシ油・パーム油）の不飽和アルコールを開発



パーム油

2021年

バイオマス可塑剤
グリーンサイザー®を開発、
バイオマスマークを取得



バイオマス
No.210315
バイオマスマーク

2023年

植物由来の化粧品素材
RiKANATURA®を開発

原料

天然油脂
(ヤシ油、パーム油)

石油由来原料
(ナフサから
得られる基礎化学品)

製品分野 (主な製品)

オレオケミカル

アルコール
界面活性剤

可塑剤

耐熱性可塑剤
耐放射線可塑剤

合成樹脂原料

ポリエステル原料
エポキシ樹脂硬化剤

機能性化学品

結晶核剤 潤滑油
ポリイミド

主な使用分野

トイレタリー



化粧品



自動車



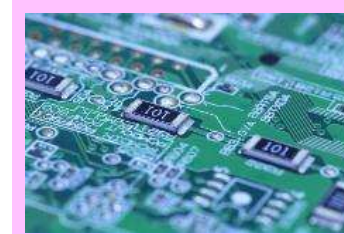
住宅設備



医療器具



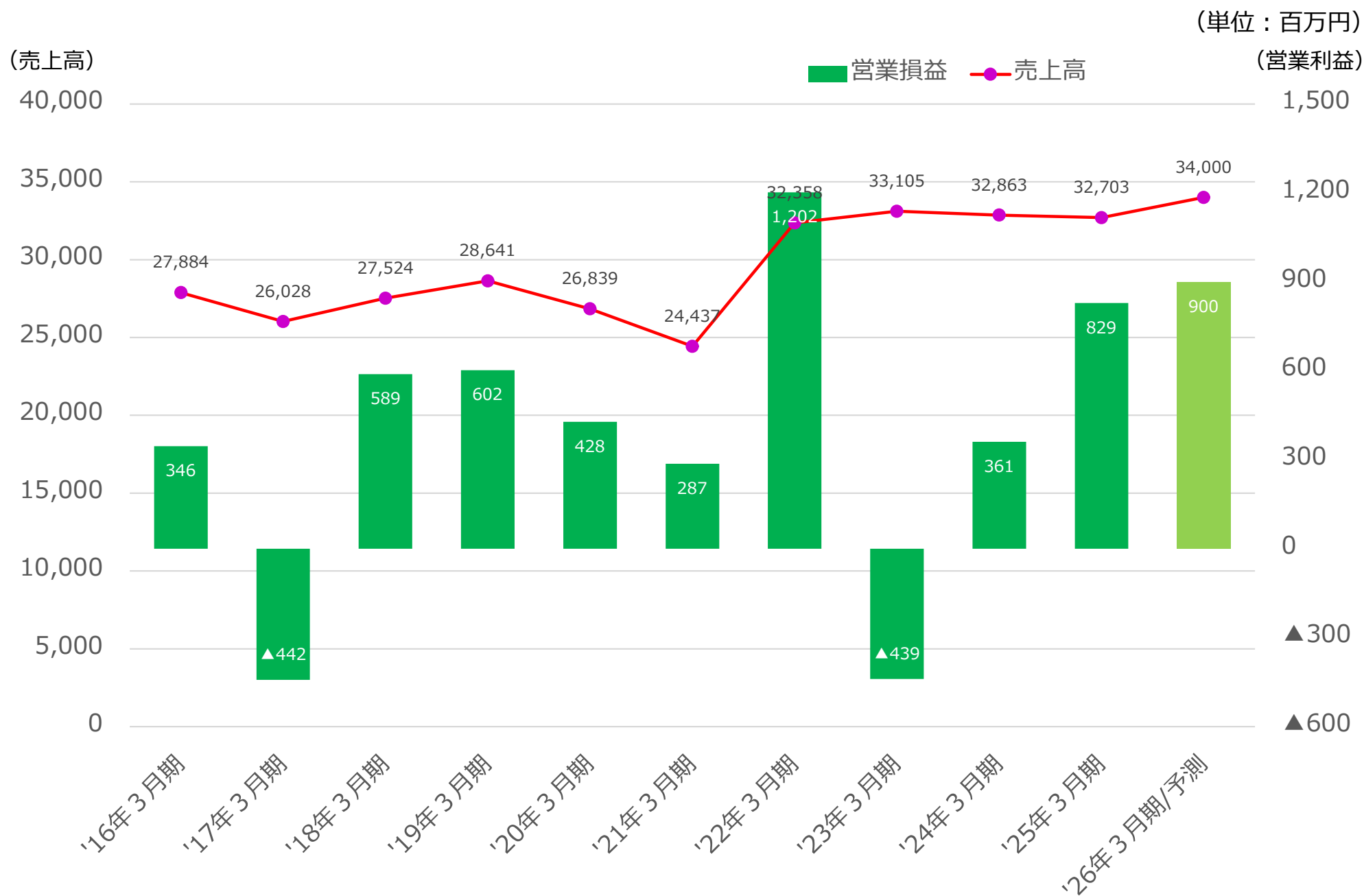
電子製品



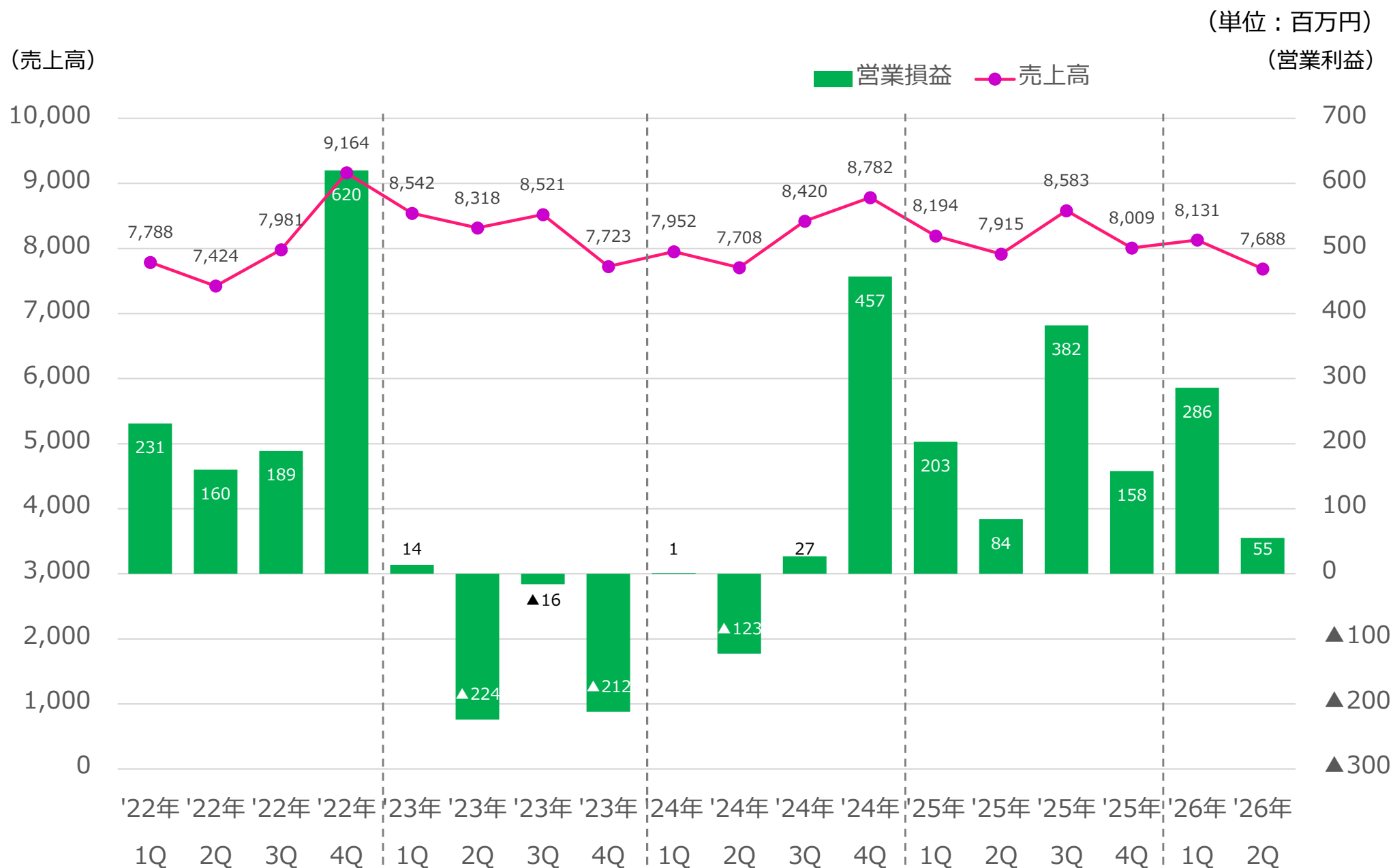
会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
日新理化株式会社	千葉県 市原市	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 当社製品である可塑剤、界面活性剤の製造
アルベス株式会社	大阪府 大阪市	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 業務用洗剤等の製造および販売 当社製品を含む化学製品等の仕入販売
日東化成工業株式会社	神奈川県 横浜市	新日本理化 55.0%	<ul style="list-style-type: none"> 金属石鹼、塩化ビニル用安定剤等の製造および販売
NJC Korea Co., Ltd.	大韓民国	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 当社製品の韓国向け販売

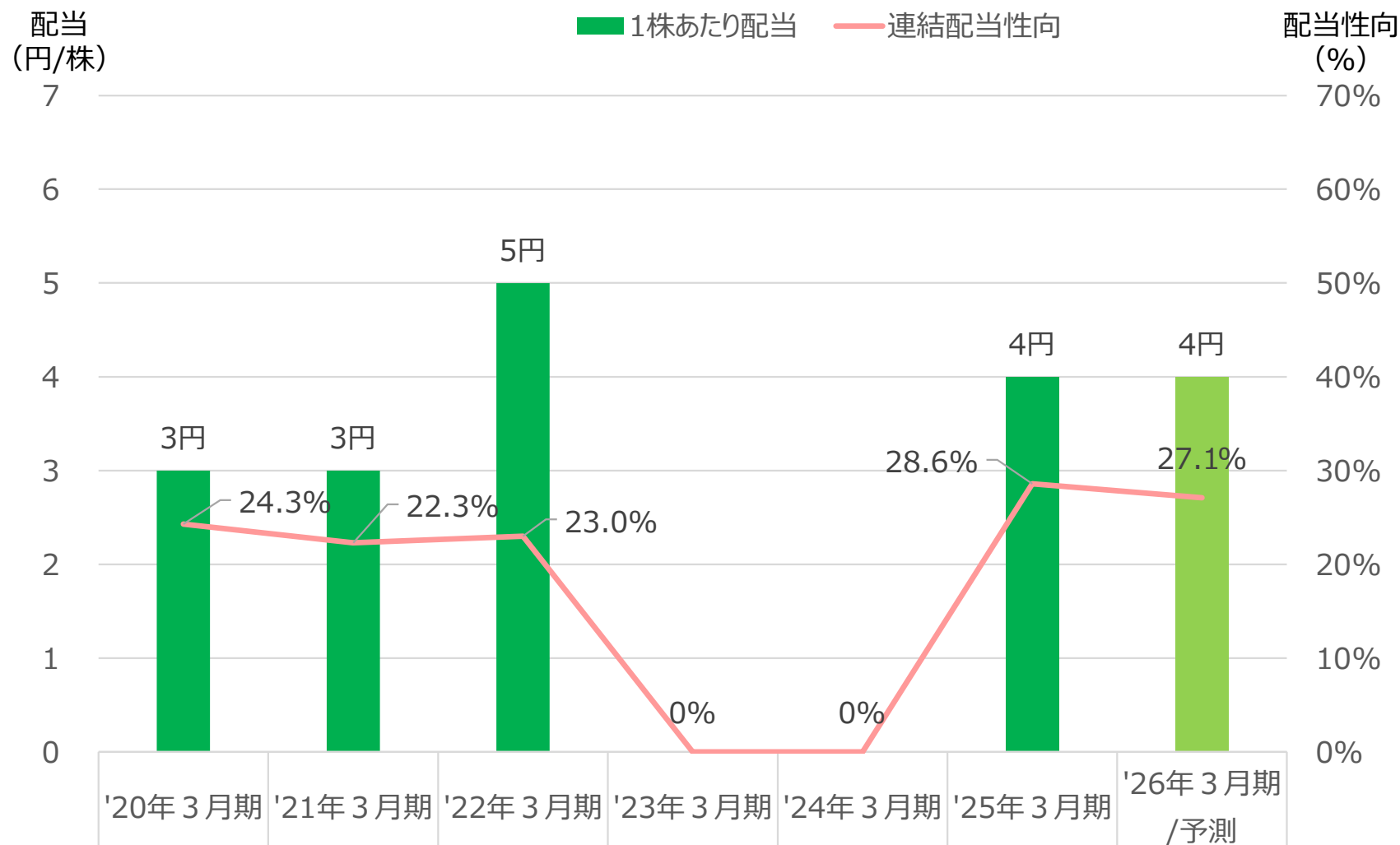
会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
NJC Europe Ltd.	イギリス	新日本理化 100.0%	・ 当社製品を含む化学製品の販売
NJC America Inc.	アメリカ	新日本理化 100.0%	・ 当社製品を含む化学製品の販売

会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
Edenor Oleochemicals Rika(M)Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 25.0%	・ 天然脂肪族アルコールの製造および販売
台湾新日化股份有限公司	台湾	新日本理化 43.7%	・ 各種界面活性剤の製造および販売
Nice Rika Biotechnologies Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 30.0%	・ 界面活性剤の製造



連結業績の推移（四半期）





■ 1株あたり配当	3円	3円	5円	0円	0円	4円	4円
— 連結配当性向	24.3%	22.3%	23.0%	—	—	28.6%	27.1%

＜見通しに関する注意事項＞

- 本資料に記載されている業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- したがって、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



Be the best **SPICE!**